

第4次総合調査について

総合調査の目的

茨城県内の自然誌に関する資料及び情報の蓄積を図り、茨城県の自然誌科学発展のための基礎資料とする。そして、茨城県の自然の全体像を明らかにすることを目的とする。

・茨城県内の夜空の明るさについて

総合調査実施の方法

茨城県を4つの地域に分け（図1）、各地域を3カ年かけて調査する。

〔第1次総合調査〕（平成6～8年度）

筑波山・霞ヶ浦を中心とする県南部地域の自然

〔第2次総合調査〕（平成9～11年度）

鶏足山塊・涸沼・県央海岸地域を中心とする県央地域の自然

〔第3次総合調査〕（平成12～14年度）

阿武隈山地・県北海岸を中心とする県北東部地域の自然

〔第4次総合調査〕（平成15～17年度）

八溝山地・久慈川を中心とする県北西部地域の自然

〔植物分野〕

〈維管束植物〉

・茨城県北西地域の維管束植物

〈非維管束植物〉

・茨城県東海・ひたちなか地域海岸の海藻類

・久慈川の珪藻類

・北茨城の微細藻類

・八溝山周辺の地衣類

・茨城県北西地域の蘚苔類

・茨城県北西地域の大型菌類

〔動物分野〕

・茨城県北西地域の哺乳類

・八溝山の鳥類

・久慈川流域の爬虫・両生類

・久慈川水系の淡水魚類

・茨城県北西地域の昆虫類

・茨城県北西地域における土壤動物

・久慈川・那珂川河口沿岸およびその沖合の鳥類

・久慈川河口沖合を中心とした魚類

・茂宮川河口干潟の無脊椎動物相

・茨城県沖合の無脊椎動物相

第4次総合調査の内容

〔地学分野〕

・棚倉破碎帯の新第三系と貝化石群

・新第三系鮮新統久米層の底生有孔虫化石について

・久慈川河床巨礫の起源と挙動

・茨城北西地域における岩石・鉱物

・関東ローム層

表1. 第4次総合調査委託者.

分野	委託先	代表者	調査区域及び内容
地学	茨城地学会	蜂須 紀夫	調査地域における関東ローム層の調査、調査地域を中心とした光害状況の調査（県内他地域との比較を含む）
	成田層研究会	大原 隆	調査地域における堆積相および化石の調査
	阿武隈山地岩石鉱物調査会	天野 一男	調査地域における岩石鉱物鉱床の調査
植物	茨城維管束植物調査会	鈴木 昌友	調査地域全般にわたる維管束植物に関するフロラ調査
	茨城非維管束植物調査会	中庭 正人	調査地域全般にわたる非維管束植物（蘚苔類、地衣類、大型菌類、海藻類、淡水微細藻類、珪藻類）に関するフロラ調査
動物	茨城動物研究会	廣瀬 誠	調査地域全般にわたる哺乳類、鳥類、淡水魚類、昆虫類などのファウナ調査
	茨城の土壤動物調査会	田村 浩志	阿武隈山地における土壤動物ファウナ調査
	茨城の海産動物研究会	森野 浩	調査地沿岸域を中心とした鳥類、魚類、無脊椎動物などのファウナ調査

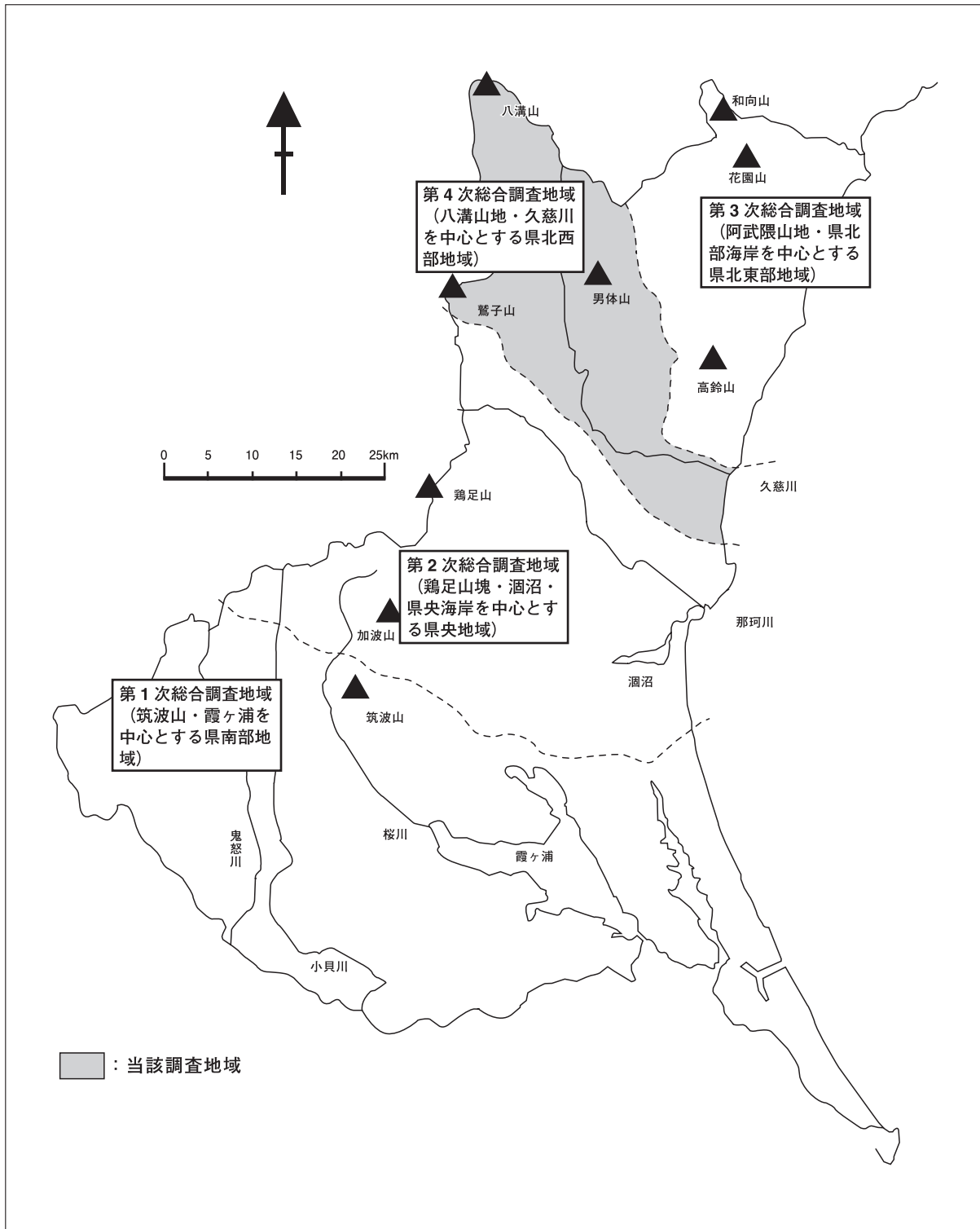


図1. 調査計画区.

地形概要

第四次総合調査の対象地域は茨城県北西部を中心とした地域であり、大子町、常陸大宮市、常陸太田市、東海村と那珂市の一部を含む。調査地域のほぼ中央部には、久慈川が山間部を南南東方向に流下し、常陸太田市南西部で東に向きを変え、支流の山田川、里川などと合流し、やがて太平洋に至っている（図1）。

調査地域中部～北部の西側には中生代付加体による堆積岩類が分布する八溝山地が南北に連なっている。八溝山地は北から八溝、鷲子、鶏足、筑波の4つの山塊に分けられ、本調査域には茨城県最高峰の八溝山（1,022 m）を含む八溝山塊、500 m内外のやや標高の低い山々が連なる鷲子山塊が含まれる。そして、山間部には新第三系堆積岩類や第四系の堆積物が分布している。

八溝山地から久慈川を挟んで東側には、標高400～

650 m程度ではあるが急峻な地形を呈する久慈山地が南北に連なる。そして、久慈山地の中央部及び東側の阿武隈山地との間に2列の棚倉断層（棚倉西縁断層、棚倉東縁断層）が走り、それぞれ山田川、里川がその断層に沿って北北西－南南東に並列する直線状の谷を形成している。このため、久慈山地は火山角礫岩類を主体とし、男体山（654 m）や籠岩、袋田の滝などの急峻な地形が形成されている西側の山地と、堆積岩類及び変形岩類を主体とし、鍋足山（524 m）などが含まれる東側の山地に分けられている。

一方、調査地域中南部の久慈川と里川に挟まれた常陸太田市南部地域や調査地域南部の久慈川以南地域には、中新統～鮮新統の堆積岩類や第三系の堆積物などからなる那珂台地が分布する。そして、その谷間は第四系の堆積物で埋積されている。

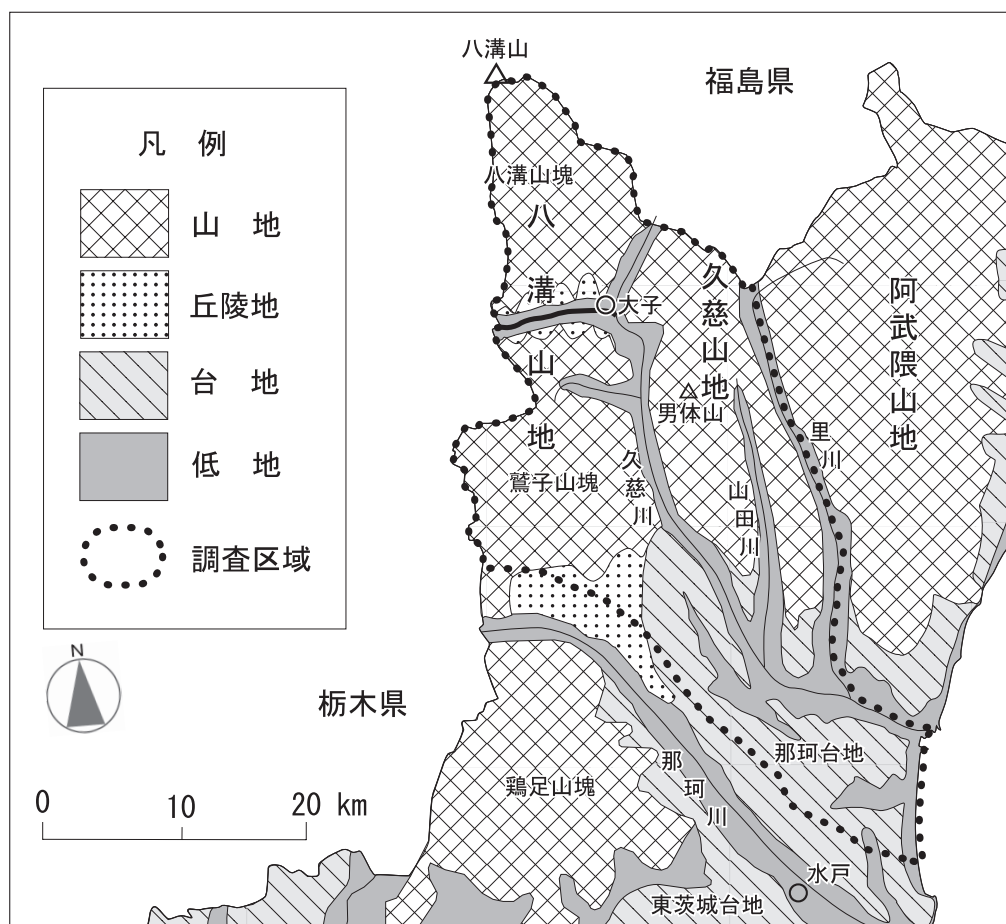


図1. 地形区分図.